





表面の凹凸  
室外ユニットの据付手順

### 5 内外接続電線の接続・断熱とテープing

**内外接続電線の接続**

- 後々のサービスのことも考え、内外接続電線には余裕をもたせてください。

**断熱とテープing**

- 1) バイパサーで接続部の配管をおおいます。
- 2) 室外機はバルブ部までしっかり断熱してください。

天井裏や押入れなど高温、多湿な場所へ配管を通す場合には、露付き防止のために市販の断熱材を巻き加えてください。

**注意**

ドレン・配管工事は、据付工事説明書にしたがってドレン・配管工事に不備がある場合、ユニットから水が落ちて配管などを汚し、汚損の原因になることがあります。

### 6 クッションゴムの取付け

台脚4か所に必ず使用してください。

- 架台を使用する場合は図のように取付けてください。

●樹脂製ブロックを使用する場合は図のように取付けてください。

●ゴム付ワッシャーは使用しません。

別売、または市販の架台を使用する場合にも、架台と付属しているクッションゴムは使用せず、当社製品に付属しているクッションゴムとボルト、ナットを必ず使用してください。

### アースの取付け

●エアコン回路のアース工事は、「電気設備に関する技術基準」にしたがって電気工事士の方が実施してください。

電源の種類	取付場所	水気のある場所	湿気の多い場所	乾燥した場所
単相100Vの機種 単相200V(単相3線式200V電線)の機種	エアコンの機種	第三種接地工事が必要	第三種接地工事が必要	第三種接地工事は必要に除外されていますが安全のため接地工事をしてください。
三相200Vの機種	三相200Vの機種	漏電遮断器を取付け、さらに第三種接地工事が必要です。		

(第三種接地工事について)

- 接地工事は電気工事士が行ってください。
- 接地抵抗値は100Ω以下であることを確かめてください。(漏電遮断器を取付けた場合は500Ω以下であることを確かめてください。)

●室内機からアースをとる際にはアース線を左下図のように、引回しアースネジM4×8で固定してください。

●MS-258Sの場合は、室内電源コードがアース付になっております。

アースネジ

アース線(φ1.6mmまたは断面積2mm以上)アース線は付属されていません。(現地手配)

アース線を溝の中に通してください。

接地抵抗値(100Ω以下)

**注意**

アース工を行う。アース線は、ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しない。

アース工に不備があると、感電の原因になることがあります。

### 試運転 (必ず実施してください)

応急運転スイッチを押すと30分間試運転の状態になり、30分以降は応急運転(24℃設定温度)となります。

- 1) 電源は定格電圧と合っているか必ず確認してください。電源プラグをコンセントに差込みます。
- 2) 応急運転スイッチを押す。(30分間は試運転となります)
  - ① 1回押すと冷房試運転を開始します。
 この時、約5秒から3分後に運転モニターランプが点滅する場合は内外接続電線の誤配線を確認してください。

●もう1回押すと運転が停止します。(応急運転スイッチを押すことに①-②を繰り返します。)

モード	運転モニターランプ
① 冷房	点灯 (点灯)
② 停止	消灯 (消灯)

**リモコンの受信確認**

- リモコンの入/切ボタンを押して、室内ユニット本体が「ピッ」となるのを確認してください。
- もう一度ボタンを押して「切」にしてください。(壁などにリモコン取付員を取付ける場合も同様に確認してください。)

リモコンで操作した場合は、リモコンの指令にしたがい試運転、応急運転とも解除されます。

- 一旦圧縮機が停止しますと、機器の保護のため3分間再起動防止機構が作動し3分間は圧縮機が再運転しないようになっています。

### 前パネルの取付けかた

- ①前パネル取付け前にフラップを下図の位置にセットします。

①フラップ  
●やや下向き

- ②前パネルの下側をフラップの下に入れます。
- ③前パネルの上側をはめます。
- ④前パネルの下側をはめた後、前パネルを開け、下図の前パネル露受けがドレンパンの内側になっていることを確認してから前パネルのネジ止めをします。

⑤前パネル矢印部を押してエアコン本体にはめます。

フラップ

### 室内ユニットの外しかた

室内ユニット下面の据付板からの外しかた

(六角レンチ使用の場合)

お手持ちの六角レンチで下図のように室内ユニットの下面を下側に引きながら本体を少し手前へ引けば下のフックが外れます。

① 差込み先端部を引上げる

② 引降る

六角レンチ(4mm)

上記の方法ができない場合

幅厚などにより、上記の方法ができない場合は、前パネルを取外し、下図のように、左右の角穴に、六角レンチなどを差込み、上側に押しせば室内ユニットの下面が下側に下がりフックが外れます。

角穴  
↑ 押す  
↓ 下がる

### ポンプダウンの手順(強制冷房運転)

移設または廃却時に、冷媒を大気へ放出しないため、下記手順にしたがってポンプダウンを行ってください。

- ① 室外機のガス側ストップバルブのところにサービスパルプにゲージマニホールドバルブ(圧力計付)を接続し冷媒圧力が測定できるようにする。
- ② 室外機の液側ストップバルブを全閉する。
- ③ 室外機のガス側ストップバルブをあらかじめ全閉近くまで閉める。(圧力計の指示が0kg/cm<sup>2</sup>に近づいた時容易に全閉ができるように準備する。)
- ④ 強制冷房運転をする。強制冷房運転は室内ユニットの応急運転スイッチを1回押す。(最大30分間まで連続の冷房運転ができます。)
- ⑤ 圧力が0.5~0kg/cm<sup>2</sup>でガス側ストップバルブ(3方弁)を全開する。
- ⑥ 運転を停止する。運転停止は室内ユニットの応急運転スイッチを2回押す。

### HAに接続するために

本機には、従来のHAシステムを直接接続することはできません。

- 接続には別売部品MAC-374IFが必要です。
- 詳細な接続方法については、MAC-374IF付属の説明書をご覧ください。

### チェックシート

の中に✓印をいれる

- 電源電圧は規定通りか?
- 内外接続電線の端子台への挿入は確実か?
- 内外接続電線の固定は確実か?
- 電源コードおよび内外接続電線の中間接続は行ってないか?
- アース線の接続は確実か?
- 配管接続部のリークテストを行ったか?
- エアージを行ったか?
- ストップバルブの弁締めは全開か?
- ドレンホースの接続は確実か?
- 本体裏側配管収納部の配管はフェルトテープを巻いたか?
- 室外ユニット台座にクッションゴムを取付けたか?
- 据付場所の強度はエアコンの重量に十分耐える場所か、騒音や振動が増大しないところか?
- エアコンの下に家具、カーテンボックスなどがあり、吹出空気をさえぎっていないか?
- (安全のために必ず守る)の注意! 注意の項目を手チェックしたか?

**お寄せまへの説明**

- 取扱説明書の手順で正しくわかりやすくご説明してください。
- この据付工事説明書は据付後お寄せにお渡しください。

三菱電機株式会社